病院＋福祉＋介護が連携

東近江の「三方よし研究会」
新しい医療、高い評価

東近江地域の病院、福祉、介護施設などが連携を深める取り組み「三方よし研究会」が、このほど患者本位の活動に光を当てる「新しい医療のかたち賞」（医療の質・安全学会主催）を受賞した。発足から5年が経過し、月一度の例会は60回を超えた。切れ目のない医療体制を目指す地域の地道な取り組みが、高い評価を受けた。

車座になって活発に意見交換する「三方よし研究会」の参加者（昨年12月20日、日野町林業センター）

質・安全学会表彰　例会60回超　顔見える関係に

2007年、脳卒中患者が病院から自宅へ戻るのを支えるためにスタートした。例会は、近江八幡、東近江の2市、日野、竜王の2町の病院や施設が持ち回りで開き、学習会（30分）と他職種連携の事例報告（40分）を中心に行う。報告された課題について意見交換する。これまでに61回の例会を開いた。

大切にするのは、顔が見える関係づくり。医師や看護師だけでなく、理学療法士、薬剤師、消防隊員など誰でも歓迎し、車座になって行う。事例報告では、患者に携わった順に職種をバトンタッチしながら状況を説明。参加者に、ほかの職種の専門家がどういう流れで患者に対応しているか理解を深めてもらう仕組みだ。

初回は約40人だった参加者は、毎回100人を超すように。テーマも、施設と在宅との関わりが重要な糖尿病、心筋梗塞などに拡大している。患者を包み込むネットワークはより厚く、より密なものになっている。

小鳥輝男会長は「地域連携の可能性をさらに追求していきたい」と話す。

（川辺晋矢）